

防災講演会 実施

7月14日（水）9：25～10：45

講師：NPO法人「レスキューストックヤード」代表理事 栗田暢之 氏

内容：「高校生に期待すること～地域の防災力を高めよう」

参加：全校生徒962名，教職員58名 地域住民11名



災害現場で被災者支援を行ってきた体験談から、「過去の災害から学ぶ」とはどういうことなのか、生徒に対して問題提起がされた。

阪神・淡路大震災や新潟県三条市の水害など、災害状況を交えて、命を守ることの大切さ、高校生ができることを話された。

真剣に話される講師の話に、生徒も地域住民とも自分のこととして捉えていたようである。

◎ 生徒の感想から・・・

「他人事じゃないことを実感した。自分は大丈夫ではなく、自分に危険があることを自覚して備えておきたいと思う。」

「命の重さ、ボランティアの重要性など、多くのことがためになった。」

「話を聞いていて涙が出そうになり、今まで他人事に感じていた自分が恥ずかしくなった。」

「防災袋に非常食の他、他人を救助する道具を入れよう。」

「いざという時のために家族で話し合っておきたい。」

「近所の人とのつながりも大切だとわかった。高校生は災害が起きたとき人を助ける側に回るべきだ。」

「自分がやれることをやっていきたい。」

「災害は怖い。日ごろからの備えが大事であることがよくわかった。」

防災避難訓練 実施

7月15日（木）9：05～10：00

避難訓練 その後 1年 救助袋による降下訓練
2年 消火訓練
3年 搬送訓練



消防署の御協力をいただき、避難訓練他を実施した。グラウンドに全学年の避難が終了するまで、学年間で3分もの差が生じ、より迅速な避難が必要であることがわかった。また、消防署から、火災発生時の初期対応や避難誘導に改善が必要であることが指摘された。



1年生は降下訓練の予定であったが、強風のため救助袋が風に流され危険な状況であると判断。急遽実際の訓練はとりやめ、救助袋使用方法の説明、職員には救助袋の設置方法の説明等が行われた。



2年生は水消火器による消火訓練を実施した。消防署員の説明のあと、実際に、代表の生徒が順番に的をめがけて消火訓練を行った。水の勢いがあまりなかったが、生徒は真剣に消火器を扱っていた。



中には、地域住民の方とペアで消火訓練を行う生徒もあり、地域との合同避難訓練としては、充実したものとなった。



3年生は搬送訓練を行った。

まず、レスキュー隊による搬送のいろいろな方法の提示があった。

一つ一つの型を、生徒は声をあげながら見入っていた。長く搬送しても疲れない、体力を消耗せず、けが人等を搬送できる方法を学び、大変参考になった。



実際に二人一組で背負う搬送方法を体験し、その後、消防署員の指導のもと、代表生徒が竿と毛布を活用した応急担架を作成し、実際仲間を搬送する訓練をした。

実際体験した生徒だけでなく、見学の生徒も真剣に取り組んでいた。



防災教育チャレンジプラン